

挑む

モノづくり ヒトづくり

し、造船や海洋構造物、回転機械などの検査を手がけた。その後、機械メーカーから紹介を頂き、製油所の検査を始めた。現在は産業界などの機械、石油や化学などプラントの検査を行っている。検査の技術自体は他社と変わらないが、検査装置を自社開発しているのが特長だ」

ウイズソル（広島市南区）は産業機械、製油所などプラントの非破壊検査を全国で事業展開する。検査装置を自社で開発する技術力を強みに顧客を広げてきた。外輪純久社長に検査装置を自社開発する背景や人材育成について聞いた。

（広島総局長・大榎茂成）
 「非破壊検査の会社として強みを教えて下さい。」
 「会社設立時は大手機械メーカーから仕事を受注する部が連携しつつ、外部の検査装置を開発してきまして、これまでどのような検査装置を開発してきましてか。」

「検査装置開発の原点は本州と四国を結ぶ橋を建設する際に依頼を受け、超音波自動探傷検査装置を開発したことが、1984年から厚板溶接部の検査に活用し、従来の放射線による検査装置と比べて検査時間を短縮できた。現在は装置開発の部署とソフトウェア開発の部署が社内であり、両部署が連携しつつ、外部の



ウイズソル社長
 外輪 純久氏

検査技術開発 挑戦できる人材育成

力も借りて検査装置を開発している」
 「検査の業界でもデジタル化が進んでいます。具体的な取り組みは。」

「小型の飛行ロボット（ドローン）を活用した検査装置も自社開発した。煙突の内側など狭い場所の検査に使っている。ドローンから送られる画像をパソコンで見ることが可能で、お客さんも確認しながら検査できる。今後、火力発電所ではアンモニアや水素の混合燃焼、船舶燃料は液化天然ガス（LNG）への代替が進む。ボイラやタンクの材質が変われば検査の仕方も異なる。情報収集を進め、新しい検査技術を開発したい」

「人材育成も重要となり、今期は会社設立から63年目。勇退する社員もあり、採用した人材の育成は重要だ。まずはあいさつなどを指導し、次に先輩社員から検査業務の基礎を学んでもらいつつ、資格取得の教育を実施。プロの検査員を育てている。当社は人がすべて。新しいことにチャレンジしようとしたとき、一歩踏み出せる人材を育てたい」